

カンキツ新品種 ‘佐賀果試2号’ について

松尾洋一・大藪榮興¹⁾・八田 聡・大原有美子・末次信行
(佐賀県果樹試験場・¹⁾ 佐賀県農業試験研究センター)

Youichi MATSUO, Eikou OYABU, Satoshi YATSUDA, Yumiko OOHARA and Nobuyuki SUETSUGU :
New citrus cultivar ‘Sagakashi No.2’

佐賀県果樹試験場では、昭和40年代後半より、温州ミカンの枝変わり品種探索を実施すると同時に探索等で選抜された品種を母本にし、新品種を育成してきた。さらに、これにより品種育成された‘サガマンダリン’を母本として、果皮色が赤く糖度が高いカンキツ‘佐賀果試2号’を育成したので育成経過と特性概要を報告する。

1. 育成経過

1990年に‘サガマンダリン’ (小西早生×フェアチャイルド) を母本に早生オレンジの‘ハムリン’を交配し、120個程度の種子を得た。外種皮および内種皮を剥皮した種子をシャーレに播種し発芽させたものを、プランターに鉢上げし育成した。この幼苗を無加温のガラス温室内で育成し、高接ぎの穂木が採取できるまで1本仕立てで誘引・伸長させた。62個体の実生苗を1992年3月より順次、圃場内の10年生‘サガマンダリン’を中間台として高接ぎを行った。中間台1樹当たり15系統程度を腹接ぎし、徒長させた枝梢を支柱に誘引し、2.5m程度達した枝の先端を引き下げて開花を促進させた。1994年より一部の系統に結実が始まり個体選抜を開始した。

‘サガマンダリン’は多胚性のため、育成された個体の大部分は珠心胚実生由来と認められたが、8個体は雑種実生と確認された。この中で、1998年に初結実した1系統は、大果で果皮色が濃橙色で、糖度がやや高く品質が優れていたため継続して調査した結果、果実品質が良

好なやや晩生のカンキツと確認された。このため‘佐賀果試2号’として現地適応性試験を開始するとともに、品種登録申請の準備を行っている。

2. 特性の概要

樹勢は中程度で、樹姿はやや直立性で樹冠は長円形を呈する。枝梢の長さは中程度、葉の大きさも中程度であり‘清見’よりやや大きい。葉身の形は卵形である。花は単生有葉花が中心となる。かいよう病やそうか病については、通常の管理作業を行っていれば問題はない。

果実の大きさは200g以上で、果形は扁球形で果形指数は120程度である。果皮色は濃橙色で‘清見’に比べ明らかに紅が濃い。果皮は滑らかであるが剥皮性はやや難である。さじょうの大きさは中で、果汁は多く肉質は柔らかく、す上がりもみられない。じょうのう膜は薄く、袋ごと食べられる。香りについては‘サガマンダリン’特有の香りではなく、‘ハムリン’の芳香がある。果汁の糖度は12%弱とそう高くはないが、食味は良好である。減酸については‘清見’よりもやや早い程度である。種子は平均で2～3個程度であり、無核果もみられる。

これらのことより、本品種は露地栽培において、1月下旬頃より収穫可能なカンキツとして有望であり、赤系‘清見’として代替品種になりうると思われる。

第1表 カンキツ新品種 ‘佐賀果試2号’ の果実品質

品種・系統	平均果重	果形指数	着色歩合	果肉歩合	果皮色 ^{a)}	含核数	糖度	クエン酸含量	糖酸比
	(g)						(%)	(%)	
佐賀果試2号	229.0	121	10.0	82.1	8.8	2.0	11.4	1.31	8.9
清見	262.8	118	10.0	77.9	7.1	1.2	9.7	1.31	7.5
勝山イヨ	260.8	117	10.0	72.4	7.0	7.0	10.6	1.18	9.0

注) 2001年1月15日収穫・調査。^{a)} 旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャートによる

第2表 カンキツ新品種 ‘佐賀果試2号’ の樹体特性

項目	特性	項目	特性
樹勢	中	ジョウノウ厚さ	薄
枝梢の粗密	中	肉質	やや軟
トゲの多少	無	果汁量	多
花の多少	やや多	苦み	無
成熟期	2月	嗜好性	良
果形指数	120程度	種子	2粒程度
果実重	230g程度	貯蔵性	良
果皮厚	中	浮き皮	無
香り・量	ハムリン・中	スアガリ	無

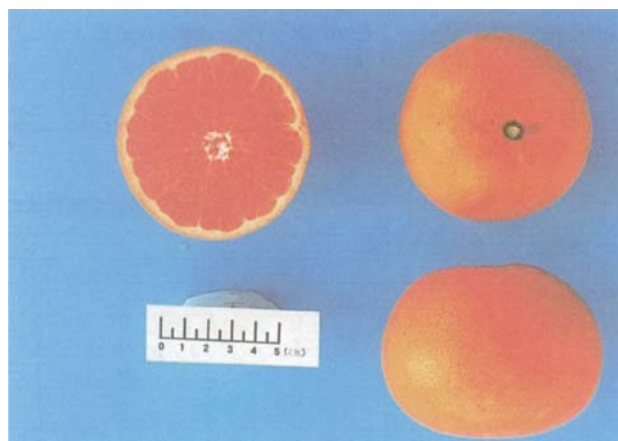


写真1 カンキツ新品種 ‘佐賀果試2号’